



SAPPORO

# *Sustainability* Book 2024

サッポロホールディングス株式会社



# Contents

目次

なぜ、サステナビリティに  
取り組むのか？

社長メッセージ ..... 02

サステナビリティマネジメント ..... 03

サステナビリティ重点課題 ..... 04

特集：YEBISU BREWERY TOKYOを… 05-06  
起点にサステナビリティを考える

サッポロの事業における  
環境への取り組みとは？

環境との調和 ..... 07-08

地域との共栄を実現する  
サッポロの取り組みとは？

社会との共栄 ..... 09-10

従業員の活躍を支える  
サッポロの取り組みとは？

人財の活躍 ..... 11-12

責任ある飲酒の推進/  
安全な製品・施設の提供 ..... 13

コーポレートデータ

経営理念

潤いを創造し  
豊かさに貢献する

サッポログループが提供する価値

全ての事業が提供する時間と空間で、  
人々と地域社会のWell-beingに貢献

編集方針

本誌では、「持続可能な社会の実現」と「持続的成長」の両立を目指すサッポログループの姿を、お客様や従業員をはじめとするすべてのステークホルダーの方々にご理解いただくため、9つの「サステナビリティ重点課題」を軸に取り組みを紹介します。なお、本誌とは別に、より詳細なサステナビリティ情報を開示する「サステナビリティサイト」、投資家向けに当社の価値創造ストーリーを詳細に報告する「統合報告書」を、当社Webサイトで公開しています。

サステナビリティサイト

<https://www.sapporoholdings.jp/sustainability/>

統合報告書

<https://www.sapporoholdings.jp/ir/library/factbook/>

本誌では、一部グループ会社の社名を略して表記しています。

SH：サッポロホールディングス、SB：サッポロビール、PS：ポッカサッポロ、SRE：サッポロ不動産開発、SLN：サッポロライオン、SGF：サッポログループ食品、SBL：スリーマン、SUSA：サッポロUSA、SVL：サッポロベトナム、YSM：ヤスマ、FBS：フォーモストブルーシール、PK：ポッカ、SSI：神州一味噌



## サッポログループ全体でサステナビリティへの取り組みをいっそう加速させ 「持続可能な社会の実現」と「グループの持続的な成長」を両立していきます

サッポログループは、1876年の創業以来、ビールをはじめとする酒類や食品飲料、外食、不動産など、人々の心豊かな暮らしを支える多彩な事業を展開してきました。そんな当社グループが、経営理念「潤いを創造し豊かさに貢献する」を実現し、これからも社会に欠かせない存在であり続けるためには、グループのあらゆる活動を通じて、気候変動問題をはじめとする社会課題の解決につながる価値創造に取り組み、「持続可能な社会の実現」と「グループの持続的な成長」を両立させなければなりません。そこで当社グループでは、グループのサステナビリティ方針のもと、9つのマテリアリティ(重点課題)を特定し、それぞれの目標達成に向けて、進捗をモニタリングしながら活動に取り組んでいます。

重点課題の柱の一つである「環境との調和」においては、昨年、2050年の温室効果ガス排出量ネットゼロの実現のためにグループ各社が達成すべき目標を明確化しました。この目標設定は、国際的イニシアチブのSBTiから、パリ協定の目標と整合性あるものとして認定され、FLAG※を含めた目標では当社は国内初の事例です。また、水資源保全への取り組みも、企業や自治体の環境情報開示のため

の世界的なシステムを運営する非営利組織のCDPから最高評価の「Aリスト」に選定されました。さらに、サッポロビールが創業当初から行っている大麦とホップ両方の育種の知見を活かし、気候変動に適応した原料の品種開発などに取り組んでいます。

「社会との共栄」としては、地域創生事業などを通じた「地域との共栄」のほか、「健康価値の提供」「持続可能なサプライチェーン構築」を重点項目とし、「持続可能なサプライチェーン構築」ではサプライチェーンにおける環境負荷低減や人権尊重などに力を注いでいます。

そして「人財の活躍」もサステナビリティに欠かせない重要な課題です。当社グループでは「ちがいを活かして変化に挑む越境集団になる」という人財戦略テーマのもと、これからも引き続きダイバーシティ&インクルージョンを推進し、多様な人財の活躍の場を広げると同時に、積極的な人財投資によって個の成長と組織の強化を図っていきます。

これらを確実に実行していくために、当社グループでは従業員のマテリアリティに対するさらなる理解浸透と意識向上を図り、今後、グループ全体でサステナビリティへの取り組みをいっそう加速させていきます。従業員一人ひと

りがマテリアリティを“自分事”として捉え、その目標達成のために自分が「できること」「すべきこと」を自ら考えて行動する——そんな強い意志と行動力にあふれた企業グループとして「持続可能な社会の実現」に貢献するとともに、「グループの持続的な成長」を目指していきます。

サッポロホールディングス(株)  
代表取締役社長

尾賀 真城



※ FLAG(Forest, Land and Agriculture)は、農業や林業、その他土地利用に関連するセクターのことであり、FLAG関連排出とは、これらのセクターにおける非エネルギー起源の温室効果ガスを示す。



## 環境変化に適応し、事業成長の機会として サステナビリティの取り組みを進めます

サッポログループでは、サステナビリティ経営の推進として「サッポログループサステナビリティ方針」のもと、サステナビリティ重点課題に対する取り組みを進めています。この重点課題は、「事業による社会・環境への影響度」と「社会・環境による自社財務への影響度」の両面から、リスク・機会の観点で各事業との関連性を評価して定めたものです。

すでに、気候変動に対しては「緩和」と「適応」の観点から脱炭素や気候変動に適応する原料育種などの取り組みを進めています。これは、気候変動の将来予測に応じて事業への影響を考慮した対応です。このように、サステナビリティへの取り組みは、私たちの経営戦略そのものとも言えます。

地球環境の変化にともない、人々の価値観や生活も変わります。私たちは、こうしたさまざまな環境変化に適応し、それを事業成長の機会として、これからも「環境との調和」「社会との共栄」「人財の活躍」を柱とした重点課題に対してサッポロらしいサステナビリティの取り組みを進めます。



サッポロホールディングス(株)  
常務取締役

松風 里栄子

サッポログループ サステナビリティ方針

## 大地と、ともに、原点から、笑顔づくりを。

サッポログループは、

人々の幸せな笑顔のために、地球環境や社会の課題に向き合い、取り組みます。

自然の恵みの源泉である大地こそ最も重要なパートナーと捉え、

商品・サービスの開発から、お客様が手にしたその後までの全ライフサイクルにおいて、

思いをひとつにするステークホルダーとの協働・共栄に励み、

原点からの発想を大切に、知恵を尽くして持続可能な笑顔の創出に挑みます。

こだわりの「ものづくり」と、地域に根ざした「まちづくり」、

そして「世界の笑顔の開拓者たれ」の誓いを胸に、

地球上のあらゆる地域における「笑顔づくり」を目指します。



# Sustainability Issues

サステナビリティ重点課題

中期経営計画(2023~26)の策定にあたり、グループを取り巻く社会情勢や事業環境の変化に対応してサステナビリティ重点課題を全面的に見直しました。なかでも、事業との関連性や、リスクと機会の影響度の大きさから、「脱炭素社会の実現」「地域との共栄」「多様な人財の活躍」を最注力課題と位置づけています。サステナビリティ方針「大地と、ともに、原点から、笑顔づくりを。」のもと、9つの重点課題への取り組みを推進し、人々と地域社会のWell-beingに貢献していきます。

★最注力課題

## 環境との調和

- 1 脱炭素社会の実現★
- 2 循環型社会の実現
- 3 自然共生社会の実現

### 主な2030年までの取り組み

- スコープ1, 2 温室効果ガス排出量 42%削減 (2022年比)
- スコープ3 温室効果ガス排出量 25%削減 (2022年比)
- 国内販売PET製品 再生材利用率 50% PS
- 水の効率的利用
- 気候変動対応可能な特性を持つ大麦・ホップの国内品種登録出願 SB

## 社会との共栄

- 4 地域との共栄★
- 5 健康価値の提供
- 6 持続可能なサプライチェーン構築

### 主な2030年までの取り組み

- 保有物件価値向上と賑わいの創出 SRE
- 「地域創生事業」活動 SB
- 日本のレモン生産の環境構築活動 PS
- 主要調達先のサステナビリティ調達ガイドライン遵守率 100% SB PS

## 人財の活躍

- 7 多様な人財の活躍★

### 主な2030年までの取り組み

- ワークエンゲージメント 54以上(2026年目標)※
  - 女性取締役比率 30%以上 SH
  - 女性管理職比率 20%以上※
  - 統合調査「未来価値創造に向けた挑戦」3.0以上(2026年目標)※
  - グローバル中核人財 100名(2026年目標)※
  - DX・IT基幹人財 200名(2026年目標)※
  - プレゼンティーズム損失率 33.4%以下(2026年目標)※
- ※対象企業は SH、SBI、PS、SRE、SLN です。

## 8 責任ある飲酒の推進

## 9 安全な製品・施設の提供

みんなで話そう!

# YEBISU BREWERY TOKYO



## を起点にサステナビリティを考える

2024年、エビスのブランド体験拠点「YEBISU BREWERY TOKYO(以下、YBT)」が開業しました。  
エビスビール発祥の地・恵比寿の賑わい創出への貢献はもちろん、  
恵比寿ガーデンプレイスの環境対策など、従業員が取り組んでいることを聞きました。

恵比寿ガーデンプレイスは  
100%実質再エネ化。  
「豊かな時間」と「豊かな空間」  
を提供します。

恵比寿ガーデンプレイス  
30周年を記念し、  
まちの皆様とビールを  
つくります。

エビスビールの原点・  
恵比寿で多くの乾杯と  
賑わいを創出します。

ルーツを大切に、  
恵比寿ならではの  
一杯を開発し、  
醸造していきます。

ともに歩んできた  
恵比寿とエビス。  
地域の皆様とともに、  
新時代のエビスブランドを  
つくっていきます。

YBTを拠点に、  
多様なイベントで  
恵比寿のさらなる  
賑わいを生み出します。

サッポロ不動産開発(株)  
恵比寿事業本部 賃貸部

高澤 直哉

サッポロビール(株)  
外食営業本部 首都圏本部  
東京統括支社 東京南支社

吉本 梨乃

サッポロビール(株)  
ビール&RTD事業部  
エビスブランドG  
Chief Experience Brewer  
(醸造責任者)

有友 亮太

サッポロビール(株)  
ビール&RTD事業部  
エビスブランドG  
エビスブランド  
ブランドマネージャー

沖井 尊子

サッポロビール(株)  
ビール&RTD事業部  
エビスブランドG  
YBT開業プロジェクト  
統括リーダー

萬谷 浩之

サッポロ不動産開発(株)  
経営企画部  
サステナビリティ推進G

青海 美沙希

私は、YBTのある恵比寿ガーデンプレイス(以下、YGP)の不動産管理をしています。YGPは、2024年10月に30周年を迎えます。これを祝して、YGPで働く方々や地域の皆様と、YGP30周年記念オリジナルビールをつくることになりました。恵比寿で醸造したビールで、まちの賑わいを願って乾杯するのが楽しみです。今後も恵比寿にいっそう、貢献していきます。



高澤



吉本

私は恵比寿エリアの営業担当をしています。このまちの個性豊かな飲食店様に、当社のファンになっていただき、より多くの当社製品をお取り扱いいただけるよう、日々尽力しています。「恵比寿のまちをサッポロビールから元気にしたい」という思いで活動し、まち全体の賑わい創出を実現することを目指します。

私はYBTで醸造するビールの開発に醸造責任者として携わっています。今回YBTのフラッグシップビールである「エビス∞」では、35年以上前に恵比寿工場で使用していたエビス酵母を採用。現在はJR恵比寿駅でのホップ栽培も開始、今後このホップを活用した商品も検討していきます。この土地とブランドのルーツを感じていただきながら、よりおいしく感じられる一杯を提供できるよう、地域の皆様とともに一緒に取り組んでいきます。



有友

ブランドマネージャーとしてYBTに携わっています。私たちのルーツである恵比寿。そして、地名のルーツとなったエビス。1890年にエビスが生まれたこのまちで、私たちは再びビールづくりを始めました。過去と現在、未来をつなぐ圧倒的なビール体験施設としてYBTを位置づけ、地域の皆様とともに新時代のエビスブランドをつくっていきます。



沖井

エビス発祥の地でビール醸造を再開し、リアル体験をお客様にお届けしたいとの思いから、2019年、YBT開業プロジェクトが始動。私はプロジェクト統括リーダーとして携わっています。エビスブランドではYBTのほかにも、恵比寿のまちの賑わいを生み出すイベントを実施しています。これからも地域の皆様とともに賑わいを創出していきます。



萬谷

YGPにおけるサステナビリティ推進の業務に携わっています。YGPは100%実質再エネ化を実現。さらに複数のオフィス棟で、ワーカーの健康・快適性などを評価する「CASBEE-ウェルネスオフィス評価認証」で、最高位「Sランク」を取得しました。サステナビリティを通じて人々と地域社会のWell-beingに貢献します。



青海

# 地球環境を守り持続可能な社会を目指す、「環境ビジョン2050」

サッポログループは大地が育む自然の恵みに感謝し、社員一人ひとりが、積極的に環境保全に取り組み、持続可能な社会の実現を目指しています。なかでも「脱炭素社会の実現」は世界共通の喫緊の課題であり、サッポログループがサステナビリティ重点課題において「最注力」とするものの一つです。サッポログループでは取り組みをいっそう強化するべく、2023年に「環境ビジョン2050」を更新しました。

## パートナーやサプライヤーの皆様とも、温室効果ガス排出量削減に取り組んでいきます。

更新した環境ビジョン2050では、スコープ1<sup>\*1</sup>、スコープ2<sup>\*2</sup>、スコープ3<sup>\*3</sup>の「温室効果ガス排出量ネットゼロ」と、「使用電力の100%再生可能エネルギー化」を目標として設定しました。このビジョンを達成するため、2030年中間目標として、スコープ1、2で2022年比42%、スコープ3で2022年比25%の温室効果ガス排出削減を設定しました。また、原料農産物などの土地利用における温室効果ガス排出を示すFLAG関連排出に対する目標も新たに設定しています。この2030年中間目標は「地球の気温上昇を1.5℃

に抑える」というパリ協定の目標と科学的に整合していることから、国際的なイニシアチブであるSBTiより認定を取得しました。とくにFLAG関連排出に対する認定を取得した企業は国内で当社が初めてです。これらの目標達成のためには、サプライヤーや業界他社などステークホルダーの皆様との協働が欠かせません。持続可能な社会の実現のため、社内外の皆様と協力して取り組んでいきます。

※1 スコープ1：自社による温室効果ガスの直接排出  
 ※2 スコープ2：電力会社から供給された電気などの使用にともなう間接排出  
 ※3 スコープ3：スコープ1、2以外の事業活動に関する排出

サッポロビール(株)  
 経営企画部

中野 慎也

## 環境ビジョン2050

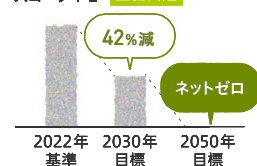
### 01 脱炭素社会の実現

- スコープ1, 2, 3で、温室効果ガス排出量ネットゼロを目指します
- 使用電力を100%再生可能エネルギー由来にします

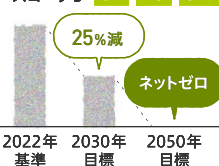
#### 目標

#### 温室効果ガス排出量

スコープ1・2 全社共通



スコープ3 SB PS SBL



### 02 循環型社会の実現

- グループ全体で、事業に関わる全ての資源の3Rに努めます
  - －循環型社会に対応した容器包装の100%使用を目指します
  - －工場での水使用量削減に継続的に努め、持続可能な水資源利用を実現します

### 03 自然共生社会の実現

- 大麦・ホップの研究開発を通じて持続可能な調達に貢献します
- 持続的に自然と共生できる豊かな時間と空間を感じるまちづくりに貢献します



## Topics 01

### サプライチェーンにおける温室効果ガス排出削減の取り組み

#### トラック輸送から 鉄道・船舶による輸送へ

サッポログループではトラック輸送から鉄道・船舶を利用した輸送への切り替え(モーダルシフト)を推進してきました。その一環として2024年2月から、サッポロビール千葉工場と仙台工場間の製品輸送において、鉄道コンテナ利用を従来の2倍に増やしました。これによりCO<sub>2</sub>排出量を年間約44t削減できる見込みです。

私たちは、物流環境変化に応じた持続可能な物流体制の構築に向け、ロジスティクス改革を推進しています。新技術の導入や、物流ネットワークの最適化、さらに他企業様とのアライアンス強化により「サステナブルな物流」の実現を目指します。

サッポログループ物流(株)  
ロジスティクス  
ソリューション部  
野倉 健児



## Topics 02

### 100%再生可能エネルギーを目指した取り組み

#### PPAモデルによる太陽光発電設備を導入

サッポロビールとポッカサッポロフード&ビバレッジは、PPAモデル※1による太陽光発電設備を生産拠点や研究所に導入することで再生可能エネルギー利用を促進しています。また、サッポロ不動産開発は2022年度に制定した「再エネロードマップ」に基づき、2023年度に全保有物件で同社が調達する電力について、非化石証書を用いた100%実質再生可能エネルギーの取り組みを進めています。

※1 発電事業者が費用を負担して事業者の敷地内に太陽光発電設備を設置し、発電した電気を事業者に供給するモデル



ポッカサッポロフード&ビバレッジ  
名古屋工場

気候変動への取り組みに関しては下記ページをご確認ください。  
<https://www.sapporoholdings.jp/sustainability/environment/nature/climate/>

## Topics 03

### 循環型社会実現につながる取り組み

#### 紙使用量を大幅削減した容器包装の開発とアップサイクルを追求

サッポロビールでは「ecoフレンドリー」プロジェクトを実施し、紙使用量を大幅に削減した次世代容器包装の開発に取り組んでいます。実証実験を通じたお客様とのコミュニケーションを重視し、スピード感のある実用化につなげていきます。また、麦芽の搾りかすやホップの茎と葉といったビールの副産物を使ったアップサイクルジーンズを制作するなど、副産物活用の可能性を広げています。



改良型6缶パック



黒ラベルのアップサイクルジーンズ

「ecoフレンドリー」プロジェクトやアップサイクルジーンズは、サステナビリティの観点でお客様と接点を持つことができる取り組みです。これまで培ってきたブランドの個性と物語を追求しながら、より良い社会の実現に向けて「黒ラベル」も貢献していきます。

サッポロビール(株) ビール&RTD事業部  
黒柳 真莉子



## Topics 04

### 水資源保全の取り組み

#### CDP「水セキュリティ」において最高評価「Aリスト」選定

2023年、サッポロホールディングスは、CDP※2からの質問書を通じて情報開示したあらゆる企業や自治体を含む24,000以上の組織のなかから、水セキュリティ分野の透明性とパフォーマンスにおけるリーダーシップが認められ、最高評価を獲得しました。当社の事業活動において水が重要な資源であることを認識し、水使用量の削減、水リスクの把握・管理に今後も取り組んでいきます。

※2 気候変動など環境問題に関心を持つ世界の機関投資家などの要請を踏まえ、企業や自治体の環境情報開示のための世界的なシステムを運営する非営利組織

今より  
もっと

# 食で地域を元気に

サッポロビールは「継続的に地域課題の解決に貢献する」ことを目指して、地域創生事業として地域食材のブランディングや販路開拓のサポートに取り組んでいます。2023年度は、高知県の水産物について、販路拡大の支援を行いました。自治体や生産者、飲食店と連携して実施した取り組みをご紹介します。



## 名産品の魅力を県外に広め、 食材の「ファン」づくりに貢献します。

2023年度、高知県とともに、高知県産の水産物の魅力を県外に広める事業を実施しました。まず、飲食店の皆様に高知県産の水産物を知ってもらうために、産地見学会や商談会を開催し、28社42人の方に参加いただきました。その後、408店舗で「高知フェア」が実施され、食材の魅力をお客様にお伝えいただきました。また事業を通じて「高知家の魚応援の店」※に300店以上も新規登録をいただくことができました。このように生産者と飲食店を結び食材のファンを増やすことが、持続的な地域支援につながっていくと、私は確信しました。今後も地域課題の解決に取り組んでいきます。

※ 高知県の食材を使用する店舗のみならず、高知県を応援している店舗などが登録する制度。



サッポロビール(株)  
新規事業開拓部地域創生G  
柴田 努

## 地域の食材の魅力を伝えるとともに、 お客様に満足いただける店舗をつくります。

2024年5月から6月にかけて、サッポロライオンは「エビスバー」で、高知フェアを実施しました。土佐伝統製法による完全ワラ焼きカツオや、郷土料理であるウツボのタタキなどをフェアメニューとして提供し、ご好評をいただきました。私は、高知県の水産物というカツオの印象が強かったのですが、実際に産地見学に参加して、カツオ以外の魚種も豊富であると知りました。試食をするとエビスビールとの相性が良いのではないかと思います。今後も地域創生事業と連携したフェアの実施を検討し、お客様により喜んでもらえる店舗をつくっていきます。



(株)サッポロライオン  
エビスバー・レオ事業部  
二ノ宮 和徳

## 地域創生事業とは

外食企業様と生産者をつなぎ、  
地域産業の売上に貢献する

サッポロビールのフードビジネスサポートグループでは、外食企業様の食材調達をサポートするなかで毎日のように外食企業様のニーズを聞く一方で、廃業していく生産者の現状にも直面してきました。そこで両者を適切につなぐために、日本各地の自治体や地域の生産者を支援する活動として地域創生事業をスタートさせました。

詳細は下記ページをご覧ください。  
<https://www.sapporoholdings.jp/sustainability/society/community/resource/>

### 2023年度、支援実績は9件

- 宮城県
  - 北関東量販店でのホヤ販路拡大支援
  - 沖縄飲食店でのホヤフェア実施
- 福島県
  - 飲食店での農水物販路拡大支援
  - 都内でのリアル商談会・セミナー実施
- 茨城県
  - 農産物販路拡大支援
- 岐阜県
  - 飛騨牛と鮎販路拡大支援
- 高知県
  - 水産物販路拡大支援
- 福岡県
  - 首都圏でのトップシェフ向けフェア実施
  - 関西圏でのトップシェフ向けフェア実施

# 地域とともに、持続可能なレモンづくり

ポッカサッポロフード&ビバレッジは、長年にわたりレモンの素材研究やレモン商品の製造・販売に携わってきました。近年ではレモンを使っていただく機会やシーンが広がり、国産レモンの需要が増えています。一方で、国産レモンの生産量はその需要に追いついていません。そこで、国産レモン生産の活性化に向け、生産現場で農家の現状を知ろうと、ポッカサッポロフード&ビバレッジは2019年4月より、広島県大崎上島町でレモン栽培を開始しました。第一次産業が抱える課題に向き合い、自社農園で自らレモン栽培に取り組んでいます。

## 荒廃した土地にレモンの木々を植え、豊かな土地とレモンを後世に受け継ぎます。

国産レモンの供給不足の背景には、農業全体の課題である生産者の高齢化や後継者の不在があります。管理されなくなった耕作放棄地は、一度荒廃すると再び畑として活用するまでの労力が大きく、ますます担い手が見つからない悪循環に陥っています。

2018年、当社は耕作放棄地になりかけた農地を借り、地域の方々のアドバイスのもと、レモンの栽培管理を基礎から学び始めました。2019年から広島県豊田郡大崎上島町においてレモン栽培を開始し、現地に空き家を借りてサテライトオフィスを構え、この地域で社員が働ける環境も整えました。農業経験のない私たちが一から農園をつくることは、

想像以上に大変でしたが、2021年に初収穫を迎えることができました。

2023年には、3度目のレモン収穫を実施。後継者不在の耕作放棄地を整備するなどして園地を増やし、現在は自社レモン園地2カ所と契約園地1カ所を展開、合計約330本のレモンを栽培しています。さらに4つ目の耕作放棄地の整備に取り組んでいるところです。

私たちはこれからもレモン栽培にかかわりながら産地振興を行い、「日本のレモン栽培の豊かな土地と恵みを、未来の人々と地域に受け継ぐ」ことを目指していきます。今後も第一次産業を活性化させ、社会に価値をもたらすことを実証するモデルケースをつくっていきます。

ポッカサッポロフード&  
ビバレッジ(株)  
原料ビジネス推進部 部長

土屋 淳一



# さらなる越境集団を目指して

サッポログループは、「中期経営計画2023~26」の実現に向けて、人財戦略を経営基盤の柱として位置づけています。「ちがいを活かして変化に挑む越境集団となる」をテーマに掲げ、「DE&Iの推進」「成長と生産性向上に向けた人的資本投資」の取り組みを通じて、個と組織が強くなり次々と新しい価値を創出できる企業を目指します。



サッポロホールディングス(株)  
DX・IT統括本部 DX企画部

浜本 あゆみ

## 社内のDX戦略を推進し、 業務改革や新たな事業創出に貢献

私はサッポログループDX方針に基づいたDX戦略を推進すべく、全社員対象のDX教育やDX・IT基幹人財の育成を行っています。また、社内外の垣根を越えたオープンイノベーションの場である「DXイノベーション★ラボ」を設け、事業課題を解決する提案など、社員による自発的な「DX企画」の実現に取り組んできました。これまでに約300の企画のなかから、データドリブな顧客マーケティングによる売上向上や、会議室利用状況の可視化による全社的な生産性の向上に寄与する成果が生まれています。2024年は高度DX・IT人財の育成を開始し、大胆な業務改革や新たな事業モデルの創出につなげていきます。



## グローバル成長の推進役として 世界のSAPPOROを目指す

私は、サッポロビールや日本のビール文化を世界に届けたいという思いから、2017年に「若手グローバル人財育成プログラム」に参加しました。この研修を経て、カナダやアメリカでの駐在を経験し、国際戦略部でサッポログループのグローバル成長の推進にかかわる仕事をしています。また、USCPA(米国公認会計士)を取得するなど、グローバル人財として継続的に自分を磨きながら、日本発のSAPPOROブランドをお届けする挑戦を続け、世界中の皆さんと一緒に乾杯できる日をつくりたいです。

サッポロホールディングス(株)  
国際戦略部

渋谷 幸太郎



## がんを乗り越え、 仕事と両立できる職場づくりを推進する

私はがん経験者の社内コミュニティ「Can Stars」を2019年に立ちあげました。当社の「がんアライ宣言」を具現化する場として、「がん経験者同士の相互支援」、「両立できる環境づくり」、「社会的インパクトの創出」の三本柱で活動しています。当社は「がんアライアワード2023」の「ダイヤモンド」を受賞しましたが、Can Starsはその原動力になりました。がんなどの病気になっても安心して働き続けられる会社として、これからもCan Starsの活動を社内外に発信し、より良い職場・社会づくりに貢献していきます。

サッポロビール(株)  
人事総務部プランニング・ディレクター

村本 高史



## スリーマン社の人財多様化に向けた取り組みを推進

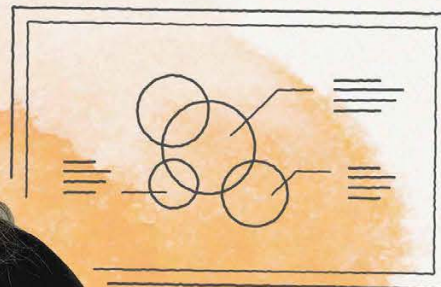
スリーマン社は人財の多様化に取り組み、インクルーシブ、公平、かつ帰属意識の高い社風の醸成に努めています。そのために教育に力を入れ、職場の公平性を妨げるさまざまな課題への気づきを社員に促してきました。また、公平な職場を実現するための各種方針・制度の策定と整備にも取り組んでいます。昨年は、採用選考における性格適性検査の廃止や、営業職社員が育児休暇中でも社用車を継続使用できる制度の開始、可能な限り社内トイレのジェンダーニュートラル化およびバリアフリー化を実現しました。

## 長期の育児休業取得が、 仕事の進め方を見直す機会に

私は第二子の誕生後、育児休業を約1年間取得しました。第一子の時は3週間の育休で、その後は働きながら育児をしましたが、成長を間近で見られなかった悔しさが、今回は1年間取得しました。社内の環境が整い、男性の長期取得が増えていると感じます。復帰から1年が経った今思うのは「育休は長い育児生活のスタート」ということです。共働きの私たち夫婦が協力していくうえで、育休は必要な期間でした。また、業務の進め方を見直す機会にもなり、家族と長く過ごすことができ豊かな時間を送れています。

サッポロホールディングス(株)  
DX・IT統括本部 DX企画部

尾崎 駿



SLEEMAN BREWERIES LTD.  
National Director, HR Shared Services

Adrienne Fox

## 酒類事業を展開する企業グループの責任を果たす

お酒の特性を正しく理解し、アルコール関連問題に真摯に向き合って、解決に努めていくことは、酒類事業を展開する企業としての社会的責任です。サッポログループは、2010年にWHOの「有害なアルコール使用を低減するための世界戦略」に賛同し、セミナーなどを通じた啓発活動や広告・宣伝、販売促進企画に関する規定の徹底など、さまざまな取り組みを進めてきました。2021年にはアルコール関連問題対策のグローバルスローガン「Promote Responsible Drinking」を掲げました。引き続き社員一人ひとりが「適正飲酒の啓発」と「不適切な飲酒の防止」の推進役となるよう取り組みを推進していきます。

### Topics

#### 大学と企業向け適正飲酒啓発セミナーの開催

サッポロビールは、お客様が飲酒に関する正しい知識を習得し、健康的にお酒を楽しんでいただくための「適正飲酒啓発セミナー」を2015年から継続的に首都圏の大学と企業で開催しています。セミナーでは、お酒の定義や酔いのメカニズムなど、適正に飲酒するための基礎知識をはじめ、酒席でのマナーなどについても講義を行っています。なお、大学生向けの講義には、20歳未満の学生を対象とした「20歳未満の飲酒防止」を啓発する内容も含まれています。2023年度は延べ19回、約1,200名が参加しました(オンライン含む)。

コロナ禍が落ち着き、飲酒機会が増えることで、啓発活動の需要が高まっています。お酒は、適度にたしなめば人々の明るい生活や豊かさに貢献する一方で、不適切な飲酒が心身の健康に害をもたらすことがあるのも事実です。酒類事業を展開する企業としての社会的責任として、啓発活動を行い、世界的な社会課題の解決につながる価値創造に取り組んでいます。

サッポロビール(株) 経営企画部 高林 充



## 守るべき基盤として安全な製品・施設を追求

サッポログループは食品を扱う企業グループとして、「商品・サービスの品質の追求と安全性の優先」をサッポログループ企業行動憲章の第一に掲げています。また、グループ各社に品質に対する考えと行動を規定し、食品安全文化を醸成・定着させるため、「サッポログループの品質保証体系」を策定しています。この体系で示した食品安全理念、行動指針、食品安全プログラムの確実な運用と継続的な改善を通じて、お客様に安全な商品・サービスをお届けしていきます。

不動産事業においては、安全な施設を提供し続けるために、施設の設計・管理・運営など、あらゆる場面で安全性と快適性を考え取り組んでいます。

### Topics

#### お客様の声でより良い商品・サービスへ

サッポログループは、お客様のさまざまな声を活かし、より良い商品・サービスの提供に努めています。「濃いめのレモンサワーの素」は、お客様から「中味がどのくらい残っているのかわからない」とご意見をいただき、残量が一目でわかるように、ラベルに窓をつくりました。また、「容量の大きいものや、手軽な缶のタイプを発売してほしい」とのご意見もいただき、「濃いめのレモンサワーの素ペット1.8L」や栓を開けてそのまま飲めるRTD缶商品「サッポロ 濃いめのレモンサワー」を発売しています。

サッポロビールは、お客様から信頼され、お客様に新しい楽しさや豊かさを発見していただける企業を目指して、事業活動を展開しています。こうしたお客様志向の経営をさらに前に進めるため、「消費者志向自主宣言」を行い、お客様の声を事業活動などに活かす取り組みを推進しています。

サッポロビール(株) 品質保証部 お客様センター 田中 輝男



# Corporate Data (2023年12月31日現在)

## 会社情報

商号 サッポロホールディングス株式会社  
事業内容 持株会社  
設立 1949年9月1日  
本社所在地 〒150-8522  
東京都渋谷区恵比寿四丁目20番1号  
資本金 53,887百万円  
事業年度 1月1日から12月31日まで  
従業員数 連結:6,610名 単体:110名

## 賛同・支持するイニシアティブ

- 国連グローバル・コンパクト
- 持続可能な開発目標 (SDGs)
- 気候関連財務情報開示タスクフォース (TCFD)
- 自然関連財務情報開示タスクフォース (TNFD)



## 外部からの評価

### ESG投資インデックスへの組み入れ



FTSE4Good



FTSE Blossom  
Japan Index

2024



Sompo Sustainability Index



### 2024 CONSTITUENT MSCI日本株 ESGセレクト・リーダーズ指数

当社のMSCIインデックスへの組み入れや、MSCIのロゴ、商標、サービスマークおよびインデックス名の使用は、MSCIまたはその関連会社による当社のスポンサーシップ、保証、または宣伝ではありません。MSCIインデックスはMSCIの独占的財産です。MSCIおよびMSCIインデックスの名称とロゴは、MSCIまたはその関連会社の商標またはサービスマークです。

「健康経営優良法人2024<sup>※1</sup>」  
大規模法人4社、中小規模法人4社 計8社認定  
うち ホワイト500 連続認定3社  
ブライト500 連続認定2社、初認定1社



女性活躍推進企業認定「えるぼし(2段階目)<sup>※3</sup>」取得



「SAFEアワード」  
エイジフレンドリー部門で  
ゴールド賞<sup>※5</sup>受賞



CDP「水セキュリティ」調査  
最高評価の「Aリスト企業」に選定



「プラチナくるみ<sup>※2</sup>」を7年間継続取得



「がんアライ部」主催の「がんアライアワード2023」で  
最上位ランク「ダイヤモンド」<sup>※4</sup>受賞



「Nextなでしこ  
共働き・子育て支援企業」に選定



## サッポロホールディングス株式会社

〒150-8522 東京都渋谷区恵比寿四丁目20番1号

<https://www.sapporoholdings.jp/>

※ 特記なしはサッポロホールディングスまたはグループで認定 ※1 サッポロホールディングス、サッポロビール、ポッカサッポロフード&ビバレッジ(ホワイト500)、サッポロ不動産開発、サッポロフィールドマーケティング、サッポログループ物流(ブライト500)、サッポロライオン、ヤスマ(健康経営優良法人認定) ※2 サッポロビール(ポッカサッポロフード&ビバレッジは「くるみん」取得) ※3 ポッカサッポロフード&ビバレッジ ※4 サッポロビール(ポッカサッポロフード&ビバレッジは5年連続シルバー受賞) ※5 サッポロライオン